

(家庭数配付)

令和5年度 川崎市立浅田小学校 学校報告会 資料

学校評価アンケート まとめ

昨年12月お忙しい中、保護者の皆様には学校評価アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
回答総数は149で、ほぼ50%の回答率となりました。学校報告会にあたり、データを集計し、結果はおもに学年ごとのレーダーチャートグラフで示しました(「その他」の項目については折れ線グラフで示しています)。

アンケートの質問項目は、学校教育目標に準じて4つの観点および「その他」に分けて尋ねています。

「やさしく」①お子さんは、だれに対しても進んであいさつしますか。

②お子さんは、相手の思いを大切にして、友だちとあそんだりかわったりしていますか。

③お子さんは、人が困っているのを見かけたら、進んで助けようとしていますか。

「かしこく」①お子さんは、相手の話を最後までしっかり聞いていますか。

②お子さんは、自分で学習の課題を見つけ、進んで学ぼうとしていますか。

③お子さんは、自分の思いや考えを進んで発表していますか。

「たくましく」①お子さんは、毎日、朝食を食べていますか。

②お子さんは、体を動かして外であそんでいますか。

③お子さんは、みんなのために、協力したり行動したりしていますか。

「いろいろな場面や教科で使える力(汎用的な資質)」

①お子さんは、友だちやほかの人の発言・話題につなげて、発言したり意見を述べたりしていますか。(言語力)

②お子さんは、自分と異なる考えや意見を聞いたり、立場や見方を変えたりして、自分の考えを深めようとしていますか。(思考力)

③お子さんは、自分のよさや発想、得意なことを生かして、進んで取り組んだり行動したりしていますか。(実践力)

「その他」①学校は、安全に気をつけ、児童が安心して通える環境づくりに努めていますか。

②お子さんや保護者に気になることや心配なことがあるとき、学校は、相談しやすい環境や体制になっていますか。

③ご家庭では、スマホやSNSの使い方について、相手に配慮したり、友だちやほかの人を傷つけないようにしたりするために、どうしたらよいかお子さんと話し合ったり、使い方についてルールを決めたりしていますか。

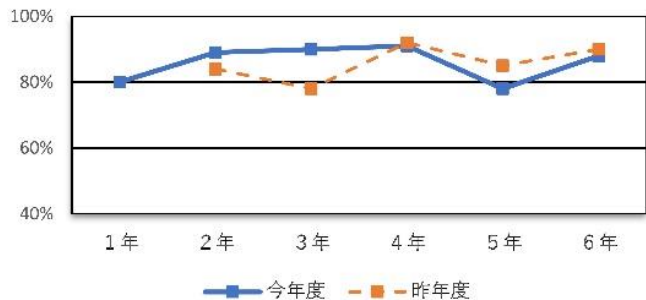
グラフの割合は、選択肢「できている」「だいたいできている」「あまりできていない」「できていない」「わからない」のうち、「できている」「だいたいできている」の合計の割合です。

令和6年 2月28日(水) 14時45分～ 多目的室&配信 配信QRコード

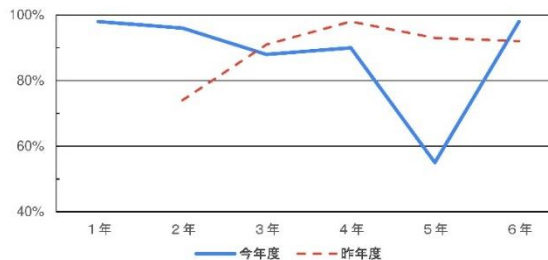


「その他」の3項目について

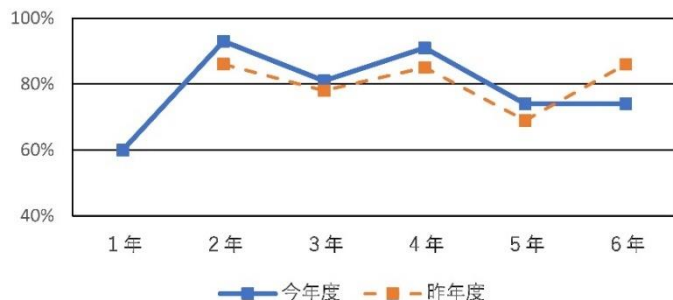
安全・安心な環境づくり（保）



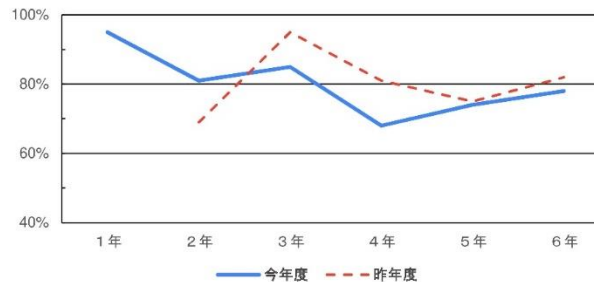
安全・安心な環境づくり（児）



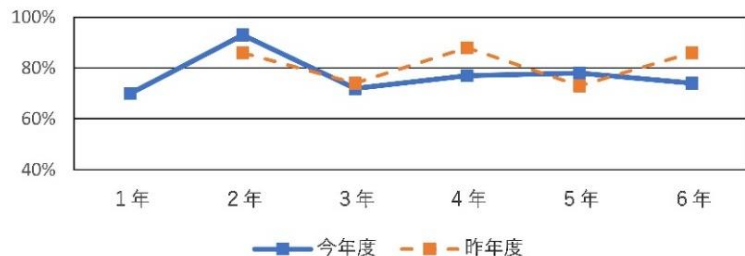
学校の相談体制（保）



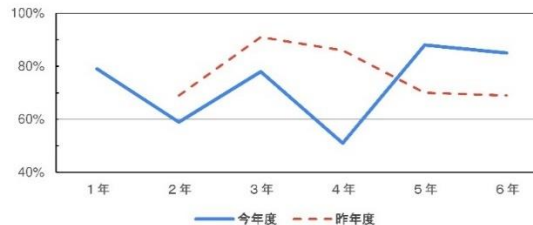
学校の相談体制（児）



携帯やSNSの使い方について 家庭での話し合いやルール作り（保）



スマホやSNSの使い方について 家庭での話し合い・ルール作り（児）

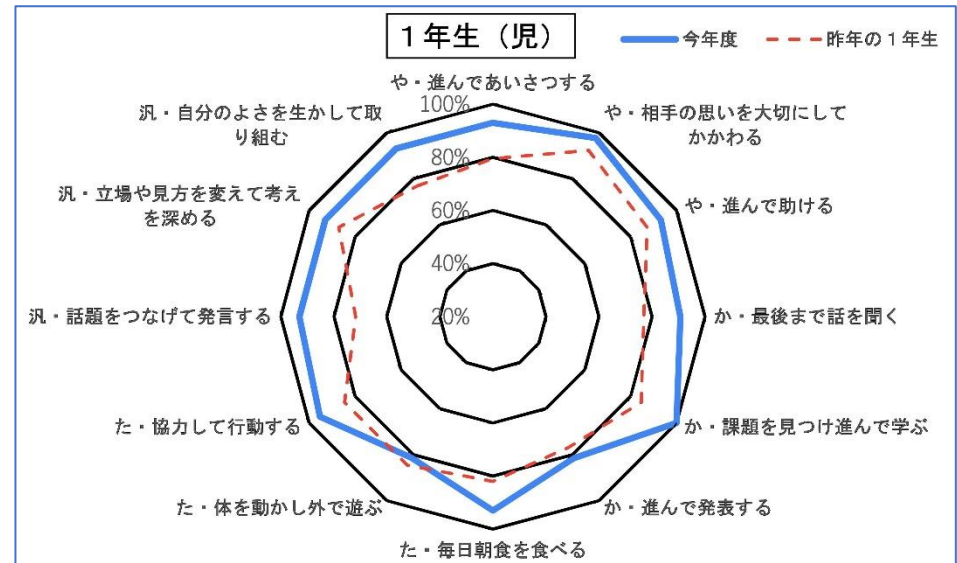
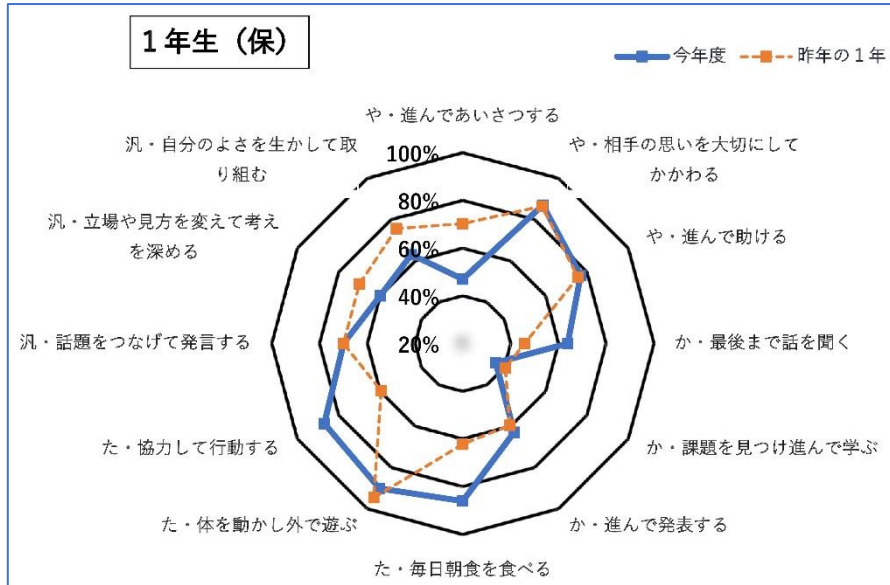


- 安全・安心な環境づくりについて
第5学年を除き8割以上の評価をしていただきました。5年生については、個に応じたきめ細かな対応はじめ、支援体制を含めた改善にっそう努めてまいります。

- 学校の相談体制について
1年生保護者、とくに初めてお子さんが入学したご家庭への相談窓口等の周知を工夫していきたいと思ます。また、高学年については、多様な相談の方法があることなど児童や保護者との情報の共有に努めてまいります。

- スマホやSNSについて
様々な機会をとらえて、トラブルの予防や回避に向けた指導を行うとともに、保護者会等を通して、ご家庭との情報共有を進めてまいります。

第1学年



1年をふり返って（第1学年）

（やさしく）

子どもたちは入学後、学校のきまりや、生活を送るうえで大切なことを学んできた。

- ・挨拶をすることで気持ちよく生活できること。
- ・友達が困っていたら進んで助けること。
- ・掃除など協力して取り組むことで、効率よく行えたり、時には満足感を味わえたりすること。

など、子どもたちが進んで取り組む姿が見られた。

特に困っている友達を見つけた場面では、親身になって相談にのってあげたり、先生に状況を報告してくれたり子どもたちの優しい姿を多くの場面で見る事ができた。

一方で、その手助けがおせっかいになる場面もあったように感じる。相手の気持ちをくみ取ったり、対話の中で引き出したりすることで、相手の思いを大切にされるようになって欲しい。

（たくましく）

1年間で体の発育もみられた。ほとんどの子が朝ご飯をしっかりと食べている。また、休み時間には鬼ごっこをしたり、縄跳びをしたり健康的に毎日を過ごすことができています。

給食は、はじめの残量が多いことが気になったが、栄養士の先生の話の聞き、バランスよく食べることの大切さをまなぶことで、苦手なものでも頑張ってみようという取り組みが増えていった。少しずつバランスよく、たくさん食べられるようになって欲しい。

（かしこく）

学習面では出来ることが増えていく事の楽しさを多くの子が感じている。初めての漢字、初めての足し算引き算。子どもたちは率先して自分の意見を発言している。毎日の宿題も、ほとんどの子が取り組むことができており、家庭での学習習慣も徐々に身につけていることがうかがえる。

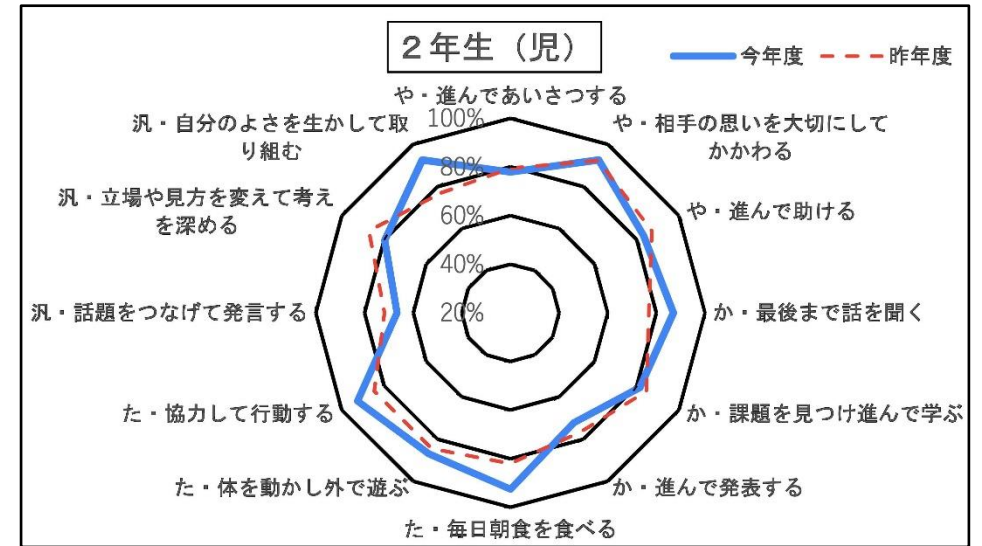
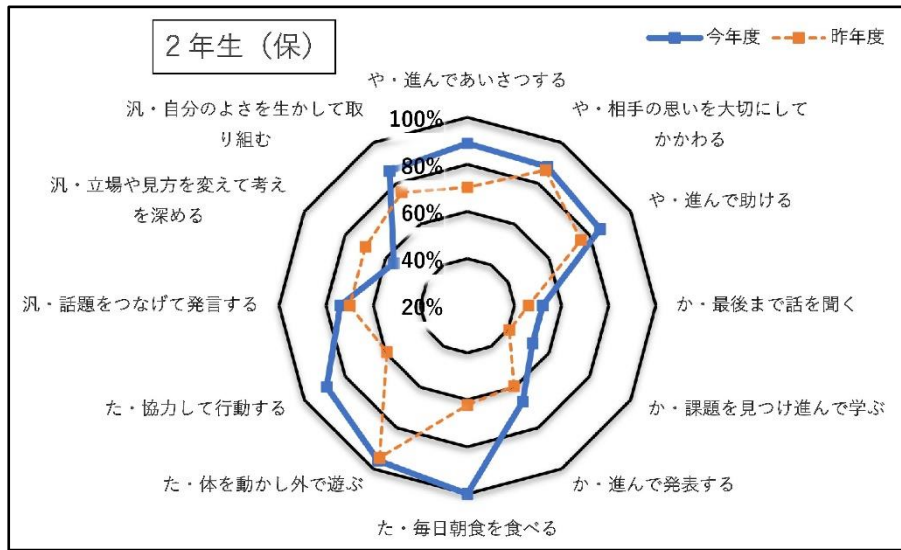
浅田小学校の研究テーマである「進んでかかわり合い 自分もみんなも大切にできる子」を意識した授業作りを行ってきた。

- ・わからないことがあれば友達に助けてもらうこと。
- ・困っている友達がいたら進んで助けること。
- ・授業中に子どもたちが温かな関わり合いをすること。

など、担任が意識的に生み出すことで、子どもたちは、協力して学習に取り組むことが出来るようになってきている。

この態度は生活面と大きく関わるものであり、学校生活を通してあたたかな関わりを生み出していってくれることを期待している。

第2学年



1年をふり返って（第2学年）

（やさしく）

1年生が入ってきたことにより、「お兄さん、お姉さんとして頑張ろう！」という意識や、各クラスでの掃除への取り組みや学級経営が「協力して行動する」に繋がっているのではないかと感じた。1年生との関わりが多かったため、子ども達の頑張りが保護者へ伝わりやすかったのかと考える。

また、得意なことは友達に進んで教えに行く姿が授業や休み時間でも多くみられることから、自分のよさを生かしていることが子どもの自信になっており、保護者にもそれが伝わっているのではと思った。

（かしこく）

最後まで話を聞く点については、保護者の見方と子どもではギャップがあるようだ。これは、集団生活での話と一対一での話の聞き方の違いがあると考えられる。全体で話を聞くときには、一生懸命に話を聞いていると子ども達は肯定的に自己評価している。しかし、「やるのが分かった！」となった瞬間に自分

の話をしゃべり出したり、一度で伝わらないと身振り手振り交えて夢中になってしゃべり出したりする姿も見られる。

また、一対一で話をする際には、「分かった、分かった」と途中で話を遮ったり、「えー」「またか」「分かっているよ」といった発言や反応をしたりすることが多く見られ、同様なことが家庭でも出ているのではないかと思った。

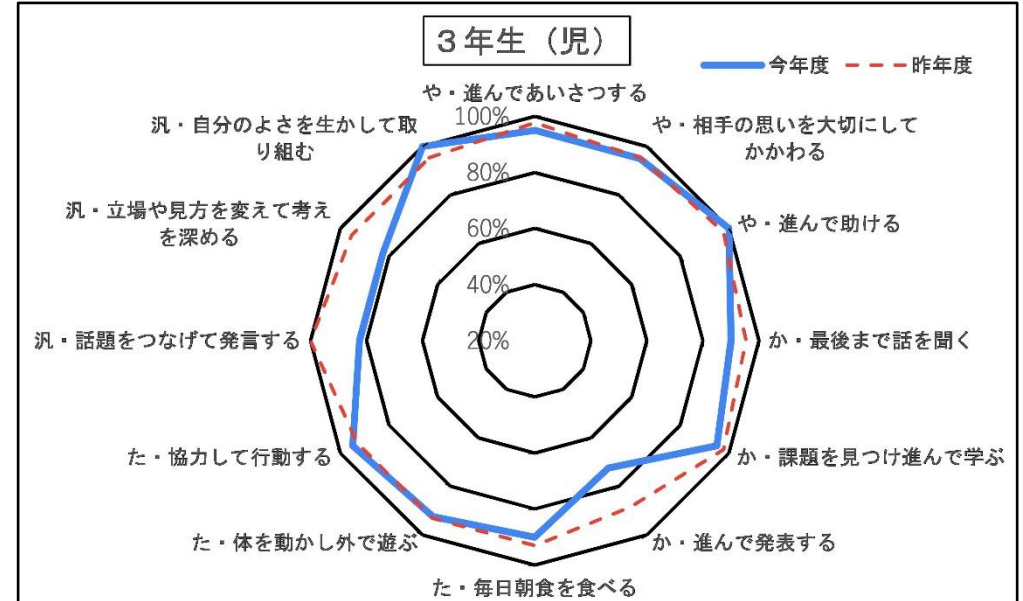
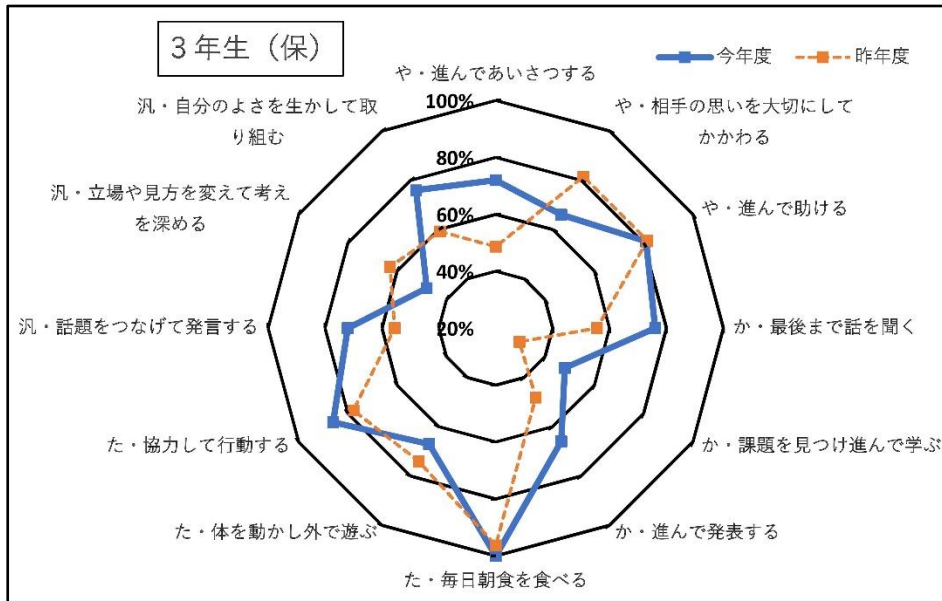
そのため、今後もどんな姿が話をしている人にとって気持ちのいい聞き方なのか、子ども達と共に考え、子ども達が理解できるようにしていきたい。

（2年生らしさ）

レーダーチャート全体を見ると、子ども達のグラフは広い円になっており、学習や学校生活への満足度が高いと感じる。保護者から見るとまだまだと感じる部分が多くあると思うが、自分のことを客観視することが難しい年齢ということ考えると、2年生らしい自尊心や自信の表れではないだろうか。

学年が上がっていくに連れて客観視できるようになり、項目間の差異が広がるかもしれないが、このまま変わりなく広い円のままで、学年に相応しい自尊心や自信を身につけて過ごしてほしいと願っている。

第3学年



1年をふり返って (第3学年)

(やさしく)

昨年4月から約10ヶ月が経過した。全体の特徴としては、学校生活の約束を守り、クラスや学年のみんなと楽しく学校生活を送ろうという意識があった。細かい部分では約束から外れてしまうこともあったが、互いに声をかけ合って直していこうとしながら少しずつ成長していく場面がよく見られた。

子どもの自己評価では、自分のよさを生かして取り組んだり、進んで助けたりするという項目の評価が高い。昨年度も高かったが、さらに今年度は上がっている。自分の思いや相手の思いを大切にしながら行動する子どもが多いと感じており、そのことを自分自身でも自己肯定し、これからも続けていこうという気持ちが表れていると考えられる。

これからも、自分達のよさを生かし協力し合いながらクラス全体の力を高めていけるような指導や支援をしていきたい。

(かしこく)

学習面においては、基本的に真面目に課題に取り組む子どもが多いが、そ

の一方で、子ども自身の分析では、話題をつなげて発言したり、立場や見方を変えて考えを深めたりするといった項目が昨年度に比べて下がっている。

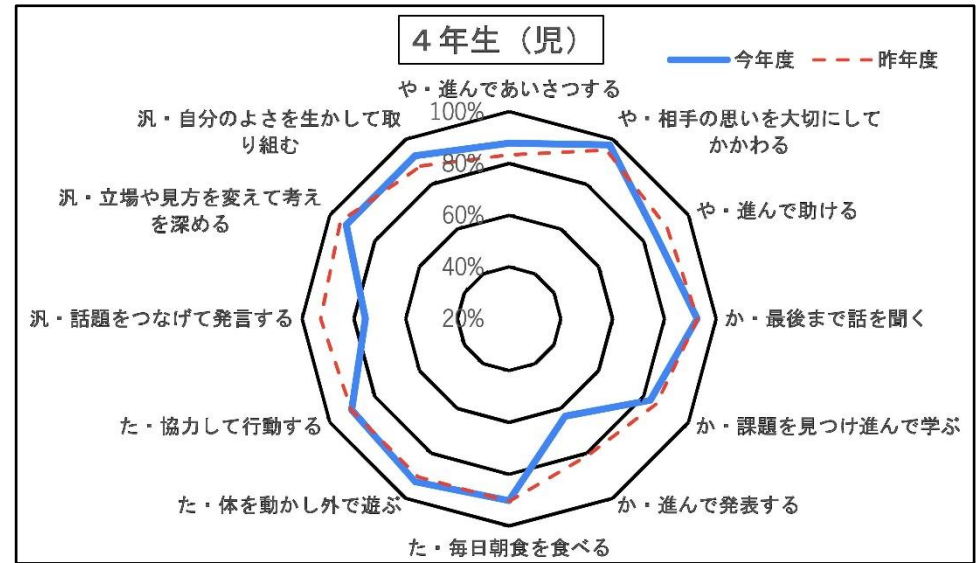
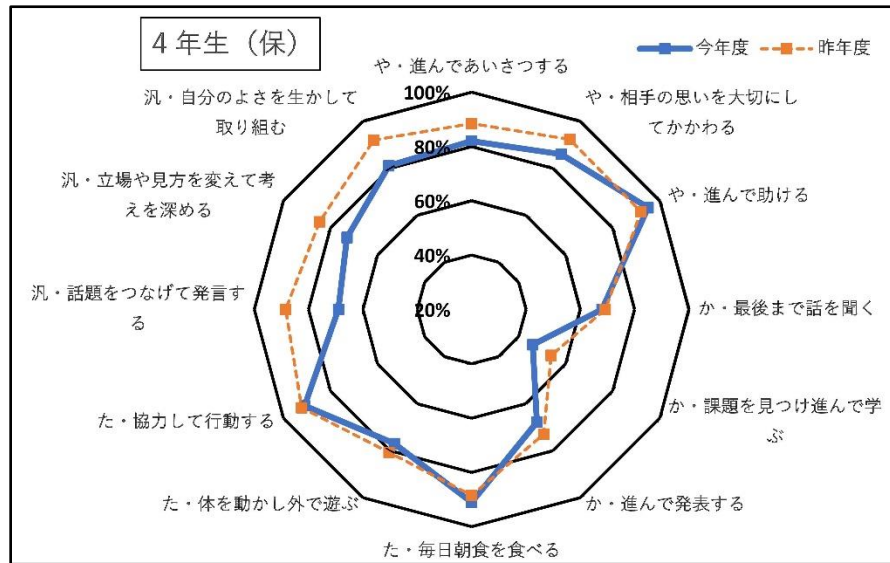
生活科から社会科と理科に分かれより専門的な内容が増えたことや、他教科も例えば体育において「マット遊び」が「マット運動」に内容が変化したように、より教科としての難しさや覚える内容が増えたため、他に視点を広げるよりも、知識や技能の習得量が増えた結果によるものと思われる。

知識や技能をしっかりと身につけることは必要なことであるが、それを基にして周囲の友達と話し合い、視野を広げてより深い考えをもたせていきたい。

(たくましく)

3年生に上がった4月に学年目標について話し合ったとき、今年度は周りに目を向けて「協力」していきたいという声が多く出ていた。アンケートの結果からすると、常にこのことを意識して動くことができていると思われる。これからあと2ヶ月で4年生になる。6年間の学校生活において後半に入るので、自らの考えを伝え相手の考えを聞きながら互いに高めていけるように、その土台を培っていきたい。

第4学年



1年をふり返って（第4学年）

（たくましく）

毎日朝食を食べ、元気に学校に登校してくる児童が多い。学校で活発に活動している分、家に帰ってから体を動かしたり、外で元気に遊んだりすることが少なくなっているのではないかと感じた。また、自分のゲーム機や携帯電話をもつ児童が増え、夢中になるあまり運動する機会が減ってきていることも原因の一つであると考えます。その点は、保護者と協力しながら今後指導に励んでいきたい。

（かしこく）

学校生活において、友達や先生の話最後まで聞こうとする姿が育ってきたように感じる。また、話をしっかりと聞くことで、友達を大切にしようと思える生活できる児童も多くいる。

一方で、学習における自分の思いや考えを伝えようとする姿は、これからも成長を続けてほしいところである。

自分の考えに対し、自信がないために伝えられない児童もいる。4年生では、「根拠に基づいて意見を表現する」を大切にして学習を行ってきた。説明

や意見を言う際の話し方や、表や図などで視覚的に伝えることを教師が例示しながら、自分たちで伝え合うことで少しずつ自分から伝えようとする姿が育ってきた。その経験を続けていき、学習に進んで取り組んでいく姿を大切にしていってほしいと思う。

（やさしく）

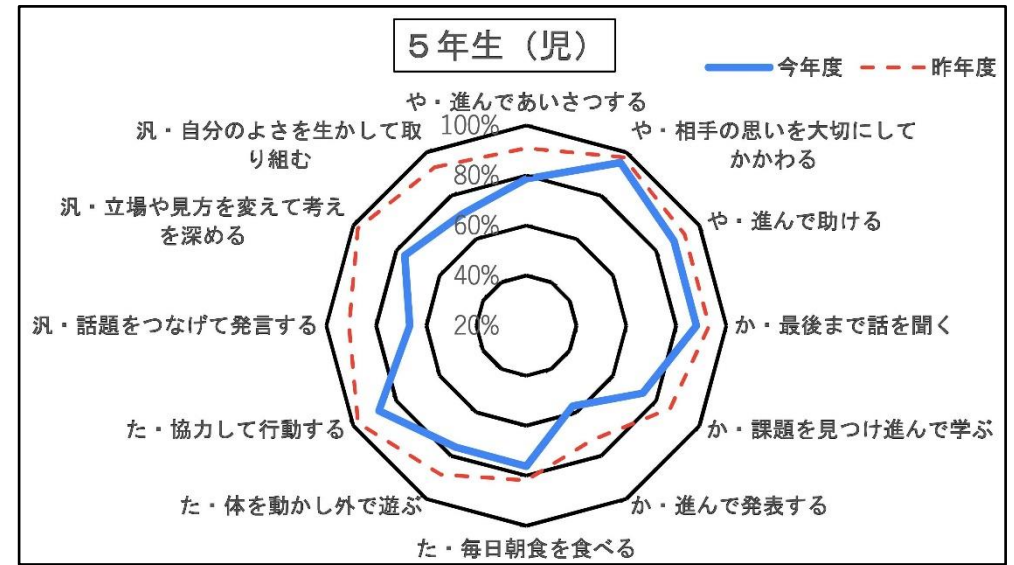
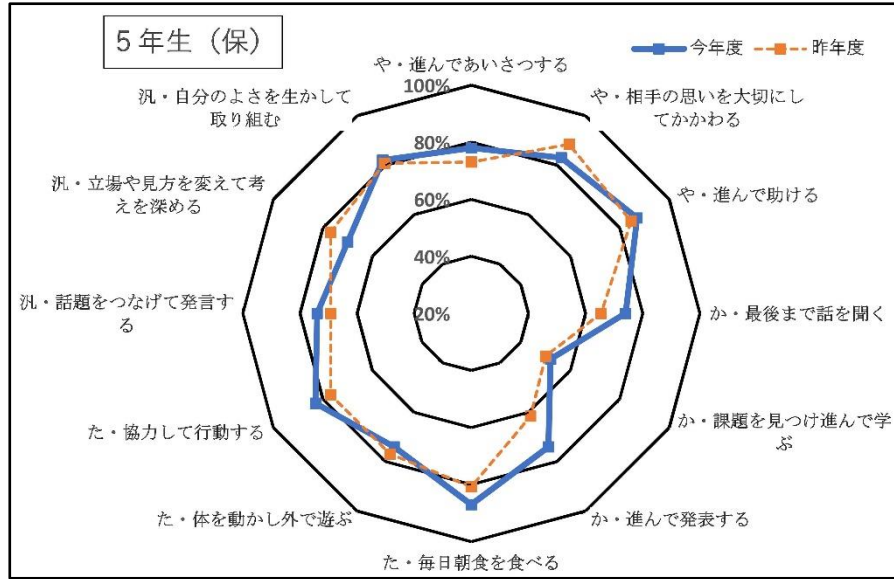
4月の初めに学年目標「One 4 all, All 4 one.」を設定した。

高学年への第一歩ということで、先生に頼るだけでなく、自分たちで協力しながら課題を達成していこうという気持ちや他学年の手本になりたいという気持ちを表している。

困ったときには自分から周りを頼ったり、困っている人を見かけたときには進んで助けに行ったりと協力して取り組む姿が多く見られた。来年度以降も続けていってほしい姿である。

ただ、まだ他学年の手本となるかどうかと言われると、全員が毎時間のようにそのような姿を見せているというわけではない。5年生に向け、全員が手本となる姿を見せられるようお互いに声をかけ合うことを続け、他学年から素敵だと思われる子どもたちに成長することを願っている。

第5学年



1年をふり返って (第5学年)

(やさしく・たくましく)

高学年になり、学校全体での自分の役割を果たそうと、学校行事や委員会活動などに意欲的に取り組んでいた。前期には、社明パレードや自然教室などの学年行事を通して、友達と団結し、互いに励まし合いながら精一杯頑張る姿が見られた。

しかし、日々の生活の中では、困っている友達に対して自然に声を掛け、手を差し伸べることができる児童がいる一方で、他者との違いや思いを深く考えず、自己中心的な考え方や言動をとってしまう児童も見られた。

そのようなことが目の前で起こった場合、周囲の雰囲気や相手からの強い口調に委縮し、注意をしたり助けを求めたりすることに躊躇してしまう児童もいた。人によって対応を変えたり、正しいことを言えなかったりするその背景には、仲良しの友だちとの関係が壊れるのを強く恐れたり、自分の立場が不利になるのを嫌がったりすることが大きく関係していると考えられる。

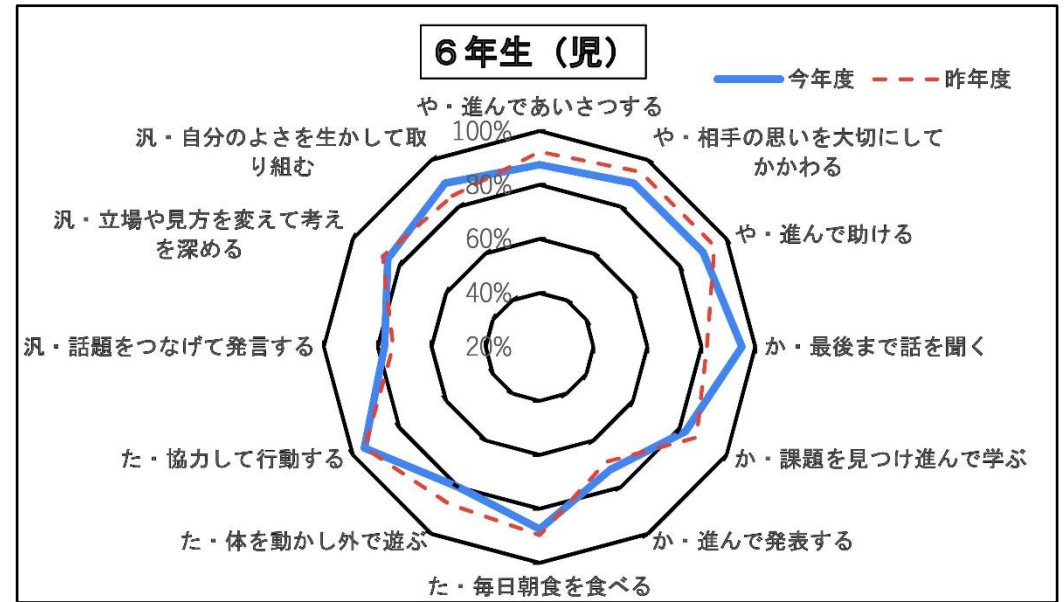
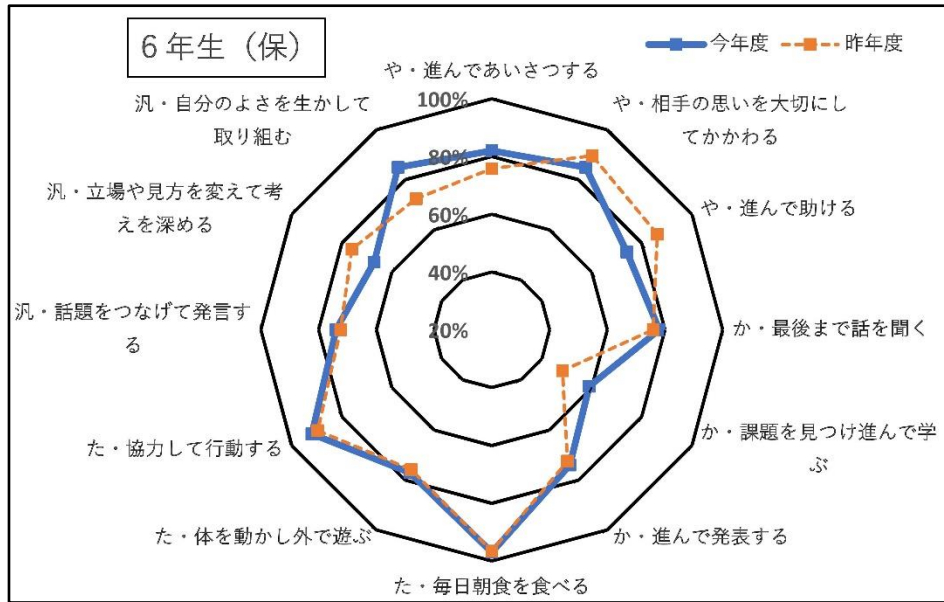
(かしこく)

学習面に関しては高学年となり、さまざまな教科において自分で考えて判断し表現する、いわゆる思考力が求められる学習課題が増えてきた。知識や理解が不十分で解決の見通しが立てられなかったり、すじ道立てて考えるのに時間がかかったりすることも多くなっている。

資料を見てじっくり考えたり、友だちの多様な意見に耳を傾けたりすることが大切になってきているが、すぐに解決を諦めたり他のことに注意が向いて学習意欲の持続が難しくなったりする場合も増えてきている。

今後、毎日の授業の中で「この課題に取り組むことにより、何ができるようになるのか」「日常生活のどんな場面に生かすことができるのか」といった目的意識を明確にする、できるようになったり習得したことを実際に生かしたりして達成感を味わう、自己の成長や自己有用感が実感できるなど、学習意欲を高めるよう努めていきたい。

第6学年



1年をふり返って（第6学年）

（はじめに）

「ONE～成長と挑戦の1年～」という学年目標で小学校最後の1年を始めた。

- ・「正しいこと、ふさわしいことには勇気をもって一歩踏み出す」
- ・「見捨てていい友達はい人もない」
- ・「一人一人が個性を輝かせよう」

という思いを込めた。児童はそれぞれの役割を果たし、協力し、大いに挑戦し成長した1年になった。

（たくましく）

行事ごとに実行委員会を設け、計画・進行するようにした。

まず、実行委員で集まって行事の目標を決め、そのためにどんな活動をすればいいか話し合い、決まったことはクラスに連絡し、準備を進めた。準備でも本番でも、教員は前面に出ず、なるべく児童が活動を進めるようにした。

初めは不慣れな児童も、徐々に堂々とした態度になった。また実行委員以外の児童は、友達の話をよく聞き、協力しようとする態度が育った。

行事ごとに誰かがリーダーになり、それ以外はフォロワーとなる。これを繰り返すことで、責任感と、相手を大切にすることが育った。友達を気遣う言動が増えたように感じる。

（かしこく）

全員理解を目指して、学び合い学習を進めた。自分が困ったら、友達に教えてもらおう。友達が困っていたら教える。クラス全体で高まっていくよう継続して指導した。

自分だけ、仲のいい友達だけにとどまらず、関わりながら学ぶ態度が育った。一方で、積極的に手を挙げ、自分の考えを伝える態度については、伸ばしきることができなかった。積極的な学習態度が育った児童も多くいたものの、その良さを、全員に浸透させるには至らなかった。

（やさしく・汎用的資質）

「相手の思いを大切に」「最後まで話を聞く」などの評価が高く、対人スキルが伸びたことがうかがえる。「進んであいさつする」という面からも、相手を意識し、思いやる心が育った1年だったのではないかと考えられる。

反対に、「課題を見つけ進んで学ぶ」や「考えを深める」など、自分の中で熟考するスキルに関しては、保護者と児童の結果に差があることから、もう一歩児童自身が気づき、高まりが欲しいところである。

「話題をつなげて発言する」「進んで発表する」については、児童・保護者とも低い評価である。実際に発言が一部の児童に偏ってしまう様子も多々見られた。自分の考えに自信を持ち、言葉で表現し高め合っていくよさに気づくことができた子もいたが、全体への広がりはいと一歩であった。